

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : ウィスコンシン大学オークレア校

**留学期間** : 平成 27 年 8 月 21 日 ~ 平成 28 年 5 月 21 日

私には夢があります。それは、高校の英語教師になり、英語を使って様々な背景を持つ人々とコミュニケーションをとる楽しさを生徒たちに伝えることです。私が留学しようと決めたとき、高校の英語教師に必要とされる高い英語力を身につけること、そして日本とは違った異国の環境で生活することで異文化をより理解することが目標としてありました。留学を決心してからは、勉学はもちろん、留学費用を貯めるためにアルバイトにも励み、ついに大学のプログラムでアメリカ合衆国のウィスコンシン大学オークレア校に 2015 年 8 月から 2016 年 5 月の約 9 ヶ月間派遣されることが決まりました。留学に行く前は自分の英語力に自信がなく、海外旅行も経験がなかったので、アメリカの大学での勉強についていけないのか、現地の学生たちと友達になれるのかなど、不安でいっぱいでした。しかし、帰国した今、留学生生活を振り返ってみると、苦しいことや辛いこともありますが、得たものはそれ以上に多く、留学して本当に良かったと心から思っています。英語力は確実に上がり、現地の人々や様々な国から来た留学生たちと触れ合うことで、異文化についてより理解することができました。しかし、わたしが留学して一番良かったと思うことは、英語力の向上や異文化理解ではなく、9 ヶ月間の留学生活の中でとことん自分自身と向き合えたことです。留学以前は、留学すれば、もっと広い世界を見ることで自分の視野を広げることができると信じていました。確かに、アメリカというこれまでとは違う環境で生活することで、視野は確実に広がりました。しかし、異なる環境で異なる背景を持つ人々と生活することで、今まで自分では気付かなかった、ともしれば無意識に見ようとはしてこなかった自分自身の偏見や未熟さと向き合わざるをえない状況に追い込まれました。しかし、そのことが、私を大きく成長させてくれたのです。

留学中に私が直面した最も大きい問題は、現地の人々と英語でコミュニケーションをとる難しさでした。その理由のひとつには、私自身の英語力の低さがあります。もともと文法やリーディング、ライティングに比べてリスニングとスピーキングはあまり得意ではなく、実際に留学当初は現地の人々の会話がなかなか聞き取れず、言いたいことを言うのにも単語がすぐに浮かばず、会話をするのにとっても時間がかかっていました。他の理由としては、文化の違いもあります。日本では言葉だけではなく仕草や話し方などから相手の意思を読み取る傾向がありますが、アメリカでは自分の気持ちや意見をはっきり言葉で表現します。その文化の違いから、お互いに伝えたいことが上手く伝えられないということもたくさんありました。しかし、いま考えてみると、英語でのコミュニケーションを難しくしていた根本的な理由は英語力の低さでも文化の違いでもなく、私の中にある恐怖でした。それは、失敗することへの恐れです。間違った英語を使ってしまったらどうしよう。英語が理解してもらえなかったらどうしよう。それで笑われてしまったらどうしよう。現地のネイティブスピーカーたちと話すときは常にそのようなことを考えてしまい、自分の言いたいことも言えず、ただ周りの話を聞いてい

るだけということが何度もありました。しかし、英語力の向上を目標のひとつとして留学した私にとって、これは大きな問題でした。英語を話さなければ、スピーキング力は上達しません。しかし、失敗することを恐れるあまり、英語を話すことができないのです。この不安を完全に払拭することは難しく、とくに留学してから2学期目の春学期に、この私の弱さが浮き彫りになりました。留学して1学期目の秋学期ではESLクラスの授業を履修し、スピーキング・ランティング・発音について学んでいたため、周りには英語を学んでいる留学生が多く、彼らとはお互いに臆することなく英語で話すことができていました。しかし、2学期目である春学期では、現地学生とともにレギュラーコースで学ぶこととなり、政治学、国際政治学、言語学、文化の4つのコースを履修しました。それぞれのコースでは、現地の学生に混じって授業を受けます。つまり、授業でのグループワークやディスカッションなどは、英語をすらすら聞いて話せることを前提にすすめられます。また、教授も1学期に履修していたESLクラスのように留学生のためにゆっくり英語を話してはくれません。そのような環境の中で、私の中の失敗することへの恐怖がさらに大きくなっていきました。それにより、2学期目のはじめ頃は、授業はただ聴いているだけで、積極的に発表したり質問したりすることはできませんでした。しかし、すぐにそのままではいけなくなりました。なぜなら、授業で教授やクラスメイトに質問しなければ授業の内容をしっかりと理解することができないからです。ネイティブスピーカーではない私には、必死で授業を聴いていたとしても、聞き逃すこともありますし、わからないところも必ず出てきます。授業について行くためには、自発的に教授やクラスメイトとコミュニケーションをとっていかなければならないのです。この環境が、私に失敗する恐怖と向き合うきっかけを与えてくれました。私は日本人なのだから、アメリカ人みたいに英語が話せないのは当たり前だ。失敗なんか気にせずに、どんどん周りに話しかけていけばいいんだ。自分にそう言い聞かせ、積極的にコミュニケーションをとることを心がけて実行していくことで、徐々にその不安は小さくなっていきました。そして、授業で自分の意見を発表する機会も増えていきました。

このように、私は留學生活の中で自分自身と向き合い、自分の弱さを知り、それを乗り越えようと努力することで、成長することができました。この報告書では失敗に対する恐怖について書きましたが、ほかにも私自身の人種や国籍に対する隠れた偏見や自分の意見をはっきり言えないことなど、留學中はさまざまな自分の弱さを知り、それらと向き合いました。この経験を生かして、これからも自分自身としっかり向き合うことで、さらに成長していきたいと思います。これから留學する皆さんは、きっと留學先でさまざまな問題に直面すると思います。それらの問題を通して、自分の弱さとさまざまな形で向き合うこともきっとあるでしょう。自分の弱さと向き合うことは、とても怖いことです。しかし、そうすることで、人は成長していけるのだと思います。留學先では日本では見ることのできない広い世界をとことん楽しんでください。しかし、問題に直面したときには、自分の内側の世界とじっくり向き合ってみてください。今まで気づけなかった自分自身のことが見えてくれば、世界の見え方も変わるかもしれません。